



未来を夢見て Season 2

2021/5/11 No. 75

研究全体会にあたって～100年前の教育改革に心を寄せて～

5月10日（月）。気持ちのよい朝ですがとても風の強い一日となりました。

月曜日は3年3組で阿部先生の初任研の日。2時間目に道徳の授業を見せていただきました。毎週指導案を書いて実践授業を行うので、初任の先生方の1年目はハードになってしまいます。それでも前回見せていただいたときより、子供たちとの距離がとても近くなっているのが安心して参観させていただきました。

本日の研究全体会の中でお話をしてほしい、ということなので、何を話そうか考えました。

研究の内容や方法、そして検証などの在り方については十分に積み重ねがあるので、これまでの財産がそのまま使えます。また、私が何より心強く思っているのは、本校の先生方の研究に取り組む様子を見ていて、皆さん自主的にしかも楽しんで研究に取り組んでいることでした。しかも、子供たちにも力が付いているので、昨年度までの継続を大事に、進めていただければ言うことはありません。

そこで、先日NHKB S「英雄たちの選択 100年前の教育改革～大正新教育の挑戦と挫折～」の中で紹介されたことについて触れてみたいと思います。番組は100年前の大正新教育運動が紹介され、その中で、与謝野晶子等の芸術家や教師たちが目指した教育の理想、現代への教訓を探りながら進められました。

芸術家たちが活躍したのが「私学」だったのに対し、「公教育」で異才を発揮したのが兵庫県明石女子師範学校主事及川平治先生の「動的教育」でした。動的教育とはすなわち為すことによって学ばせる教育です。江戸時代後半、個別指導が中心であった「寺子屋」から1872年の学制発布によって近代学校教育の土台が作られました。日露戦争にも勝利し、やや生活に余裕が生まれた時代だったからこそ生まれたのが「大正新教育」であり、動的教育の一番のねらいは児童本位の教育への挑戦でした。

さて、興味深いのはここで紹介した及川平治先生が宮城県若柳町のご出身である、ということです。実は宮城県はとても教育に熱心なところで、明治時代にもすぐれた教育者が多数輩出され、その教えが今も県内の学校には潜在的なカリキュラムとして残っているように私には思えます。一番下の写真からも、小野小学校の先生方が板書を大事にしていることが伝わってきます。それにしても「心技体」。背中の子供を育てる、とはまさにこのことですね。 (文責：手代木)

